

## 薬学実習 2

責任者・コーディネーター	薬科学講座創薬有機化学分野 河野 富一 教授 医療薬科学講座薬物代謝動態学分野 幅野 渉 教授		
担当講座・学科(分野)	薬科学講座（構造生物薬学分野、創薬有機化学分野、天然物化学分野）、 医療薬科学講座（衛生化学分野、創剤学分野、薬物代謝動態学分野）、 病態薬理学講座（薬剤治療学分野）、 医歯薬総合研究所実験動物医学研究部門		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	実習 158時間 (79コマ)
期間	通期		
単位数	5単位		

・学修方針（講義概要等）

薬学実習 2 では、構造生物薬学、有機合成化学、天然物化学、衛生化学、分子細胞薬理学、創剤学、薬物代謝動態学に関連する各講義で得た専門的な知識と技能について、実習を通して体験学修しながら統合的に考察し、レポートを作成する能力を身につけることを目的とする。この実習は各担当分野教員の他、関連分野が分担協力して行い、広範囲な領域の知識・技能を体系的に学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

構造生物薬学、有機合成化学、天然物化学、衛生化学、分子細胞薬理学、創剤学、薬物代謝動態学に関連する各講義で得た専門的な知識と技能について、実習を通して体験学修しながら統合的に考察することにより、物理化学、有機化学、天然物化学、衛生化学、薬理学、創剤学、薬物代謝動態学の実験手技の取得及びレポート作成能力が形成される。  
(ディプロマ・ポリシー：7,8)

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/7	月	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授 辻原 哲也 准教授 稲垣 祥 助教	化学系実習に関する安全講習 1. 化学系実習に係る法令、指針について概説できる。 2. 化学系実習を安全かつ適切に行うことができる。 事前学修：2年時配当科目「薬学実習1」で受けた注意等を再確認しておく。 事後学修：配布された講義資料を再度熟読する。
9/1	月	2	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	工場見学説明会 1. 工場見学の意義と注意点を説明できる。 事後学修：工場見学の注意点を確認し、準備を整える。

9/1	月	3	実験動物医学研究部門	若井 淳 講師	<p>動物実験安全講習</p> <p>1. 薬学実習において、動物実験を安全かつ適切に行うことができる。</p> <p>事前学修：2年時配当科目「薬学実習1」、本年前期の「化学系」および「遺伝子組み換え」に関する安全講習の資料を再確認しておく。</p> <p>事後学修：配布された講義資料を再度熟読する。</p>
10/20	月	2~4	薬物代謝動態学分野 構造生物薬学分野	幅野 渉 教授 阪本 泰光 教授	<p>工場見学</p> <p>1. 薬学実習2において体験した内容が、製薬工場での医薬品製造工程において応用されていることを説明できる。</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>事前学修：見学先企業について事前に調べておく。</p> <p>事後学修：見学で学んだことや新たな気づきなどをまとめレポートを作成する。</p>

・成績評価方法

全日程の出席と各分野の担当する実習全てに合格することが必要であり、実習ごとに100点満点での成績を算出し、その平均点（小数以下四捨五入）をもって評点とする。ただし、一つでも不合格となる実習がある場合は、不合格となった実習の成績をもって最終評点とする。

・特記事項・その他

担当分野からの指示が記載されている場合は、それに従うこと。記載がない場合は、各実習時期に担当分野の指示に従うこと。実習という性質上、授業に対する事前・事後学修（予習・復習）の時間は実習毎に異なるため、その内容については担当分野から指示がある。